

柿本議員（民主県政会）

令和3年2月22日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）入学定員の考え方と魅力ある県立高校づくりについて

県立高校の入学定員の決定に当たっては、以前は教育委員会は私立学校や広島市教育委員会と協議し進めてきたと伺っているが、現在はどのような考え方で決定しているのか、また、どのような課題があると認識し、今後はどのように進めていくつもりなのか、加えて、生徒の獲得が激化する中、これまで以上に県立高校へ行き学びたいと思える魅力ある学校づくりを進める必要があると考えるが、どのように進めるつもりなのか、併せて教育長の所見を伺う。

（答）

高等学校の入学定員につきましては、公立と私立がお互いに競い合うことによって、学校選択の幅を広げ、県民のニーズと信頼にこたえる高校教育の実現を図る観点などから、公立高等学校は、高等学校進学見込者数の概ね7割程度、私立高等学校は、各学校の学則で定めている収容定員の範囲内という枠組みの下で設定しております。

また、市立高等学校の設置者であります市教育委員会とは、毎年度の入学定員の策定時などに、生徒数の動向等について必要な連携を図っているところでございます。

ピーク時から生徒数が半減し、今後も中長期的に減少が見込まれる中、進学見込者数と入学定員の設定に差が生じていることもあり、入学定員の設定につきましては、これまで以上に、私立高等学校関係者や高等学校を設置する市の教育委員会と協議を行いながら、適切な入学定員の設定に努めてまいりたいと考えております。

また、県立高等学校の魅力を高めるため、これまで生徒・保護者のニーズを踏まえて進めてきた取組に加え、専門教育の充実や遠隔教育システムの推進など、Society 5.0時代の到来を見据えた教育の充実を図るとともに、各県立高等学校の育てたい生徒像などの明確化を図るなど、学校経営計画の見直しを行い、各学校の特色づくりを更に進めてまいります。